

# 習志野市立第四中学校いじめ防止基本方針

令和3年4月更新

「四中魂」を精神的な支柱にして学習や生活、部活動に生き生きと取り組んでいる四中生だが、いじめはどの学校にも、また、誰にでも発生するおそれがある。安全安心な学校づくりは学校経営の基本であるとの認識のもと、いじめ防止対策推進法（以下、「法」という）、国のいじめ防止基本方針に則り、次のような方針でいじめ問題に取り組む。

## 1 基本理念

いじめはどの学校でも、また、誰に発生してもおかしくないとの認識のもと、“いじめは絶対に許さない”という信念を持ち、全教育活動を通して、その未然防止にあたる。また、早期発見・早期対応を旨とする。いじめを認知した場合は、いじめを受けている生徒の保護とケアを第一とし、同時に、いじめを行っている生徒に対し保護者、関係機関との連携のもと、組織的に適切かつ迅速な指導・支援等に取り組む。いじめは絶対に許さないという基本方針を教員・生徒・保護者・地域住民と共有することで、いじめのない学校を実現する。

## いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの

—「法」第二条—

## 2 「いじめ防止委員会」の設置

いじめの問題に取り組むにあたって、中核となる組織として「いじめ防止委員会」を設置する。

### (1) 構成員

基本的には、既存の「教育相談部会」を「いじめ防止委員会」とするが、固定的なものではなく、協議や対応する内容に応じて学年主任・学年生徒指導担当者・担任等を交え、柔軟に対応するものとする。

校長・教頭・生徒指導主任・教育相談担当・不登校担当・各学年教育相談担当  
養護教諭・特別支援コーディネーター・スクールカウンセラー・相談員・支援員  
保護者代表・民生児童委員・青少年相談員

## (2) 役割

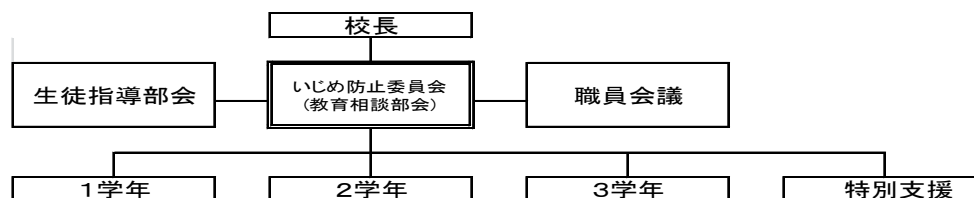
「いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの実施や、具体的な年間計画の作成・実施・検証・修正の中核となる。また、いじめの相談や通報の窓口となり、情報の収集や記録、共有の場としての役割を担う。

## (3) 定例会・臨時会

定例会——毎週時間割の中に1時間、定例会（教育相談部会を兼ねる）を開き、情報の共有・対応策検討を行う。学期に1回保護者代表等を交えて行う。

臨時会——緊急性のあるいじめが発覚した場合、緊急な対応が必要とされる場合等に行き、事実確認や対応の検討を行うと共に、必要に応じて関係機関と連携をとる。

## (4) 組織図



## 3 未然防止について

豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の素地を養うことで、いじめの未然防止に努める。具体的には以下の事柄に取り組む。

- ・ 望ましい友人関係づくりに対する指導・援助。
- ・ 気軽に相談できる雰囲気作り（学級経営等）による早期発見。
- ・ いじめは許さないという毅然とした態度での指導。
- ・ いじめは許されない行為であるという自覚を持たせる指導。
- ・ 弱い立場にある生徒を「必ず守る」強い姿勢。
- ・ 日常の生徒とのふれあいを通して、生徒理解に力を入れる。
- ・ 道徳、特活および体験活動の充実させる。
- ・ 生徒指導の機能を生かしたわかる授業を創造する。
- ・ 家庭、地域との基本理念の共有及び啓発活動の充実させる。  
— 各種たより、ホームページ、保護者会、地域会議等
- ・ 体罰や暴力、暴言などいじめを助長する行為のない学校づくりをする。
- ・ 生徒の自治活動の活発な学校づくり  
— 生徒会活動、イエローリボン運動、いじめゼロ宣言、命を大切にするキャンペーン等
- ・ 過度の競争意識や勝利至上主義を生まない学校づくり
- ・ 情報モラルを含めた情報教育の充実

#### 4 いじめの早期発見、相談・通報について

早期発見のために組織的に以下の事柄に取り組む。

- ・学期ごとにいじめアンケートを実施
- ・1, 2, 3学期に教育相談期間を設け、担任と生徒との面談を実施
- ・各学年に相談担当教員を配置し、生徒の相談を受けやすい体制、生徒からの通報を受けやすい体制を確立する。
- ・教員は日常的に生徒理解に努め、生徒の変化を見逃さない。
- ・保護者面談の実施——必要に応じて随時面談を行い、悩み相談や情報の収集にあたる。
- ・学校における相談窓口の周知  
教頭、生徒指導担当、養護教諭、各学年教育相談担当
- ・関係機関の周知  
習志野警察 (TEL 474-0110)                      実籾交番 (TEL 477-8998)  
中央児童相談所 (TEL 043-253-4101)      習志野市子育て支援課 (TEL 453-9203)  
習志野市総合教育センター (TEL 476-1715)
- ・電話相談窓口の周知  
24時間いじめ相談ダイヤル TEL 0570 (0) 78310 (24時間受付)  
県子どもと親のサポートセンター TEL 0120 (415) 446 (24時間受付)  
千葉いのちの電話 TEL 043 (227) 3900 (24時間受付)  
ヤング・テレホン (千葉県警察少年センター、非行・犯罪被害などに関すること)  
TEL 0120 (783) 497 (月～金曜日の9時～17時)

#### 5 いじめを認知した場合の対応について

いじめを認知した場合、いじめられている生徒の安全確保を第一に、また、関係機関と連携を図りながらいじめている生徒の指導に当たり、いじめの解消および再発防止に取り組む。状況により、次の第1次対応及び第2次対応をとる

##### 第1次対応

- (1) 事実の確認——当該学年の複数職員が加害生徒、被害生徒、周辺の生徒への聴き取り調査を実施。記録は保管する
- (2) 学年で情報共有、対策検討
  - ①被害生徒の安全確保——状況により安全確保のための措置をとる。徹底して守り通すことを本人と保護者に話す。
  - ②加害生徒の指導——学年でチームを編成し、保護者との連携のもと指導を行う。いじめの行為については毅然と指導し、また、加害生徒が抱える問題がある場合は教育相談等も適宜行いその解消も図る。被害生徒が非常に恐れている場合には、加害生徒の別室登校等必要な措置を講じる。

- ③全体への指導——被害生徒、加害生徒を取り巻いている傍観者となっている生徒へ全体指導を行い、いじめの拡大や再発を防止する。
- ④いじめ防止委員会へ報告—定例会を通して、事実関係・指導内容・指導の経過について報告する。(緊急性のある場合は事実確認後すぐに報告)
- ⑤見守り——いじめ防止委員会定例会で、当該学年からの報告を受け、いじめシートを活用し、長期的な見守りを行う。

## 第2次対応

- (1) いじめ防止委員会で事実を確認—当該学年から事実についての報告を受ける。
- (2) 対応チームを編成—学年の枠を超えて専門家・関係機関との連携のもとチームを編成する。教頭、生徒指導主任、学年主任、担任、生徒指導担当、教育相談担当  
スクールカウンセラー、養護教諭、保護者代表 等
- (3) 対応策・指導方針の検討—必要に応じて、児童相談書、警察等の関係機関と連携を取りながら対応策を検討
- (4) 加害生徒の指導——保護者と共同で組織的に指導を行う。いじめの行為については毅然と指導し、また、加害生徒が抱える問題がある場合は教育相談等も適宜行いその解消も図る。必要に応じて児童相談所、警察などの関係機関と連携し指導に取り組む。  
  - ※被害生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。 —「法」23条—
  - ※被害生徒、その他の生徒の教育権を保証するために、必要な場合は教育委員会と連携し、加害生徒の出席停止制度の適正運用を検討する。 —「法」26条—
- (5) 被害生徒のケア——被害生徒に精神的なケアを要する場合、スクールカウンセラーや教育相談員、養護教諭、及び関係機関と連携をとり、必要な措置を講ずる。
- (6) 解消後の見守り——いじめ防止委員会定例会で、当該学年からの報告を受け、いじめシートを活用し長期的な見守りを行う。
- (7) 職員全体で事例の共有(研修)——全職員でいじめに対する背景・事実関係・指導・経過を確認し、保護者代表や関係機関と連携を取りながら、いじめ問題の未然防止・解消・再発防止に資する。

## 6 重大事態への対処

重大事態が発生した場合、次のように対処する

### 重大事態の定義

- 1 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- 2 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。 —「法」28条—

#### (1) 重大事態が発生した場合の対応

発見者→担任→学年主任→生徒指導主任→教頭→校長  
校長→習志野市教育委員会指導課→教育長  
(Tel 451-1132) →葛南教育事務所

#### (2) 事実関係を明らかにするための調査

- ① 当該学年全体に対していじめ防止委員会作成のアンケートを実施する。アンケートについては、必ずしも記名を求めず、安心して自由に記述できるよう配慮する。
- ② アンケートは自宅で記入させ、封筒に入れて提出させ、秘密保持に配慮する。
- ③ 調査結果は教育委員会に報告するとともに、保護者に必要な情報を適切に提供する。

#### (3) 関係機関との連携

習志野警察 (Tel 474-0110) 実籾交番 (Tel 477-8998)  
中央児童相談所 (Tel 043-253-4101) 習志野市子育て支援課 (Tel 453-9203)  
習志野市総合教育センター (Tel 476-1715)

#### (4) 報道対応

- ① 窓口の一本化——報道関係者からの問い合わせは教頭が行う。
- ② 事実を簡潔に答える。
- ③ 嘘や隠蔽は厳禁。
- ④ 不明なことを憶測で話さない。
- ⑤ 個人情報など答えられないものははっきりと断る。
- ⑥ 記者の間違いははっきりと正す。

## 7 公表・点検・評価

- (1) 「いじめ防止基本方針」は年度当初に家庭・地域にホームページや各種たよりにより公表し、賛同を得、いじめ防止について協力を仰ぐ。
- (2) 「いじめ防止基本方針」は毎年度、教育課程編成アンケートを通して見直しを行う。
- (3) いじめ問題への取り組みは、「学校評価」の中で生徒・保護者・職員から評価を受ける。また、必要に応じて評価をもとにいじめ対策委員会で課題を明らかにし、「いじめ防止基本方針」に適宜修正を加え、次年度の改善に結び付ける。
- (4) いじめが発覚した場合は、速やかに教育委員会に報告をする。